

伊江村第5次総合計画(案)
パブリックコメント

はじめに

■ 計画の位置づけ

この総合計画は、変化する社会環境のなかで、常に村民と行政が共有し目指し続けられるビジョンとして、夢・希望の持てる「村の将来像」を示すことで、その将来像の実現に向けて各主体の創意工夫を導くことを目的としたものです。

目標に向かって、村民の主体的な活動の下、村民行政が一丸となって、様々な工夫をしながら取り組みます。

また、これからの地域づくりでは、様々な課題の解決に向けて、村民・行政・関係する事業者など、地域にかかわる各主体の協働が欠かせません。この協働を効果的に実践していくために、各主体が果たすべき役割を明確にしています。

●基本構想について

地域全員で目指す伊江村の将来像と、地域経営・行政経営のための指針を示します。

●基本計画について

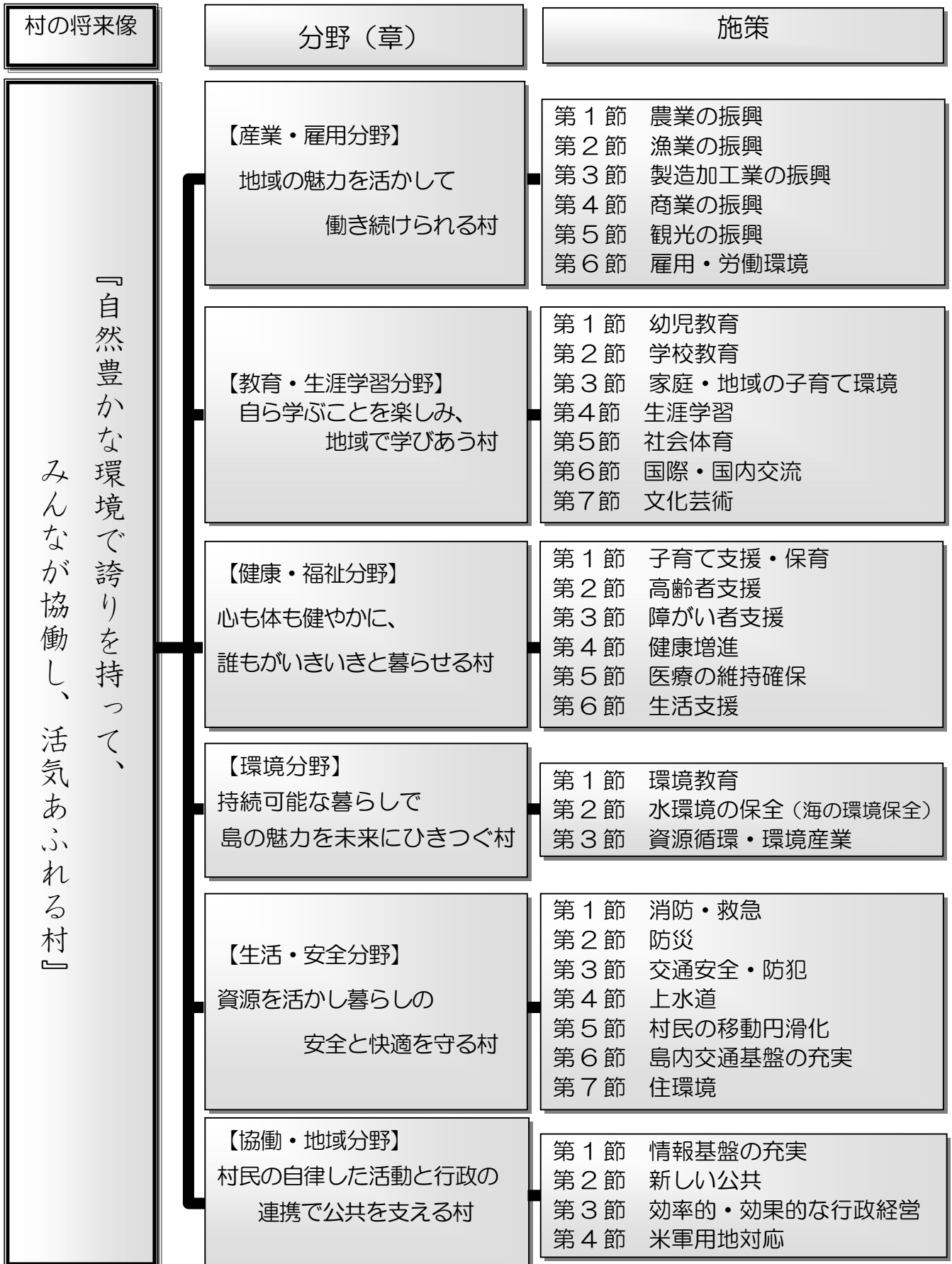
分野別の具体的な村民生活の目標像と、村民と行政の役割分担を示します。

※今回のパブリックコメントで公開する基本計画では、村民生活の目標像についてご意見を頂きたく、各施策の具体的な取り組みは割愛しております。

■ 計画の期間

計画の期間は令和3年度を初年度とする10年間とします。

施策の体系



伊江村第5次総合計画 基本構想・基本計画

(案)

村の将来像

『自然豊かな環境で誇りを持って、 みんなが協働し、活気あふれる村』

村民が自律して互いに助け合いながら、健康で、学び、働き、子どもを育て、心豊かに暮らし続けられるむらづくりを進めます。

先人から受け継いできた自然や文化と調和した持続可能な村民の活動が村の活力を高め、誇りをもって暮らし続けられる村を目指します。

将来人口

本村では、近年人口の緩やかな減少が続いており、特に年少人口の減少傾向が大きくなってきています。

今後も、さらなる高齢化や人口減少が避けられない時代となりますが、定住を左右する大きな要因となる雇用を確保するために、島の特産資源を活かしつつ観光をきっかけとした地域内産業の連携と活性化を推進することで、村出身の若者が帰りやすく、村外の人でも移り住みやすい環境を整えます。

また、出産・子育ての支援や伊江村ならではの教育の充実により未来を担う子ども達を村ぐるみで育てていきます。

誇りを持って住み続けられる村づくりを展開することで人口減少に歯止めをかけ、西暦2060年（令和42年）の将来人口を概ね5,000人と設定します。

西暦 2060 年(令和 42 年)の人口＝概ね 5,000 人

将来土地利用構想

自然と暮らしの共生が図られてきた土地利用の方向性を踏まえつつ、観光交流をはじめとする取り組みの充実を図るための拠点を位置づけ、村の自律的な発展を支える土地活用を目指します。

この構想では、土地利用の基盤となる各環境保全整備区域の土地利用の方向性ととも、島内に点在する優れた観光資源を中心に、ソフト・ハード両面で積極的な活用を図ることが望まれる観光拠点と、それらを結び島の観光を活性化させるためのネットワークのあり方を示しています。

土地利用構想の目標像

村民の生活を支える社会基盤としての土地利用と、来訪者の滞在を支える観光資源としての土地利用が調和し、村内の資源が効果的に活用されている。

■環境保全整備域等の土地利用

① 緑地・海岸環境保全整備区域

村の景観の骨格を形成し、緑のネットワークを形成しているこの整備域においては、これまで海岸防風防潮林を整備するとともに、苗木の植栽、育成を行ってきました。今後も、これらの基盤を有効に活用するための維持管理の充実を図りながら、島の緑や優れた海岸景観の保全に努めていきます。

② 農業環境保全整備区域

村の産業を支える農業を中心とした土地利用のこの整備域においては、地下ダム整備による農業用水の確保が進められるとともに、農産物加工施設や施設園芸作物用施設、黒糖工場が整備され、村の基幹産業である農業を支える環境が整ってきました。今後はこれらの農業基盤環境を有効に活用しながら新たなニーズに応えられる農業を展開しつつ、環境との調和、景観との調和が実現した農地の保全を進めていきます。

③ 居住環境保全整備区域

安全で快適な村民の暮らしを支えるこの整備域では、集落排水施設の整備が進められて、環境への負荷の少ない居住環境の充実が図られてきました。今後は生活環境の質の向上と観光面での魅力向上のため、屋敷林の保全や整備等による景観向上や、気候風土に合わせた快適な生活環境づくりを進めていきます。

④ 観光・レクリエーション環境整備保全区域

伊江島の環境を活かしながら、集中的に観光の機能強化を図るこの整備域では、観光客の滞在機能の強化やビーチを中心としたレクリエーション機能の強化、イベント機能の強化などが図られてきました。今後は温暖な気候を活かしたスポーツ・レクリエーション等機能の強化とともに、観光資源のネットワークの強化を進めていきます。

⑤ 軍用地区域

軍用地区域については国の動向を注視しつつ、今後も米軍基地内の土壌環境の保全に努め、将来の軍用地の返還後の活用に備えていきます。

■ 観光拠点の活用戦略

観光客の島内の移動環境を踏まえ、観光の魅力を最大限に発揮するために、「歩いて楽しむ」を基本とした7箇所の観光拠点を位置づけます。

各拠点では、それぞれの強みを活かしながら、歩いて楽しめる範囲を目安に観光資源の再発見や景観整備、環境整備など集中的な活用を誘導していきます。

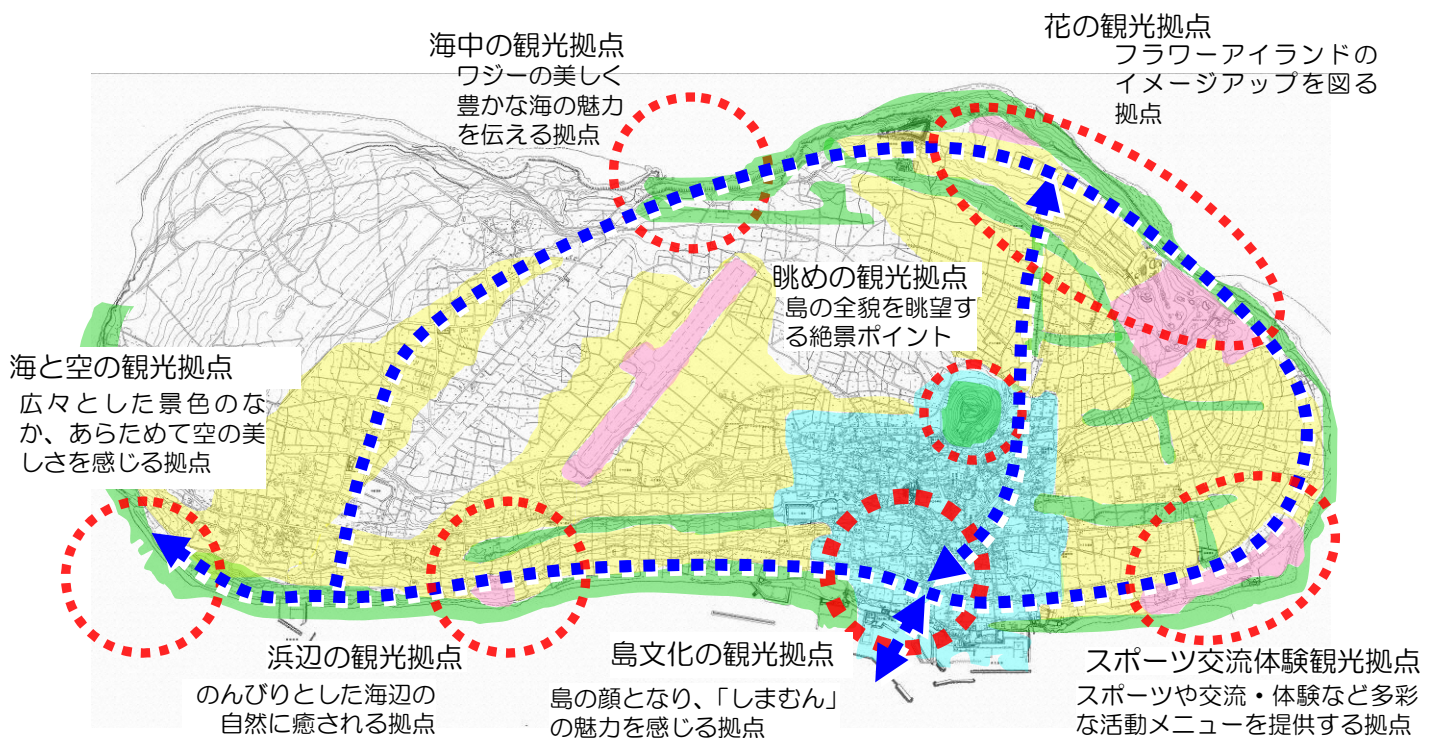
また、拠点間の距離も1 kmから2 kmとなるように設定し、自転車や徒歩で移動しながら楽しめる環境を整えていきます。

<島文化の観光拠点について>

島文化の観光拠点は、観光客のアクセスポイントであり、島の顔となる最重要拠点として位置づけます。地域との協働により、食、生活、景観などから「しまむん」の魅力を感ぜられる拠点とすることを目指します。

■ 観光ネットワークの活用戦略

豊かな自然が魅力の伊江島で、環境と調和した観光を楽しめるよう、歩いて、自転車で、その他環境に配慮した交通手段で、ゆっくりと島を巡れるネットワークの活用を図ります。島の自然に溶け込み、文化を味わい、景色を楽しみながら、心も体も健康になれる観光を目指して、道路だけでなく沿道の農林業景観の形成や、癒しの沿道景観づくりを村民との協働により進めていきます。



凡 例			
	緑地・海岸環境保全整備域		観光拠点
	農業環境保全整備域		観光ネットワーク
	居住環境保全整備域		
	観光・レクリエーション環境保全整備域		
	軍用地域		

第1章 産業・雇用

第1章【産業・雇用分野の展望】

地域の魅力を活かして働き続けられる村

10年後の伊江村は…

新たな生産技術の活用と地域産業の連携により、しまむんの魅力が活かされた特産加工品が充実し、国内外の人がその魅力を楽しんでいます。

生活様式の変化をきっかけに普及した情報技術を活用し、多様化した消費者のニーズを捉えた新たな仕事が生み出され、新たな担い手から熟練者まで幅広い村民が活躍できる村になっています。

<取り組みの方向性>

- 既存産業の活性化を図りつつ、農業・水産業の新たな技術の導入や農水商工の連携強化による加工品開発など地域資源の高付加価値化を図るとともに、国内外を視野に入れた販路開拓を進め地域の経済基盤強化を図ります。
- 仕事と観光を兼ねた長期滞在など、新たな生活様式に対応した多様な滞在型観光や日帰り観光の魅力を高めつつ、多くの人に伊江島の魅力を知ってもらうことで、通年の観光安定化を図るとともに観光をきっかけとした新たな産業の育成を目指します。
- 新たな産業の振興により働く機会の拡大と多角化を図り、Iターン、Uターンを柔軟に受け入れられる環境づくりを目指します。

第1節 農業の振興

■村民生活の目標像

魅力ある豊かな自然環境との共生を重視した農業の振興発展を目指し、伊江島ブランドの形成等、高付加価値の産品づくりが推進されるとともに、栽培技術の継承及び先進的な技術や施設の導入を推進し、農畜産業の多様な担い手の育成・確保や生産組織の育成が図られている。また、優良農地の集約化及び農地の保全を支援・推進し、「気象災害に強い」農地基盤が整備されている。

第2節 漁業の振興

■村民生活の目標像

漁業生産の向上と漁家経営の安定化、効率化を目指して、新規漁業従事者と担い手等が確保され、水産資源の保全回復及び水産業の多角的な取り組みを促進し、地域特性を活かした持続可能な漁業の振興を推進している。

第3節 製造加工業の振興

■村民生活の目標像

安全安心な地域の特産加工品が地域産業と連携のもとに開発され、来訪者はもとより、沖縄県内、国内外の消費者に支持され利用され続けている。

第4節 商業の振興

■村民生活の目標像

地域で生産され加工された伊江島ならではの商品開発が進み、観光アクティビティ等の充実が図られ、観光客の満足度が促進されている。
また、インターネット通販サービス等の環境整備に取り組み、情報発信等による観光誘客を図ることで商業振興の活性化に繋がっている。

第5節 観光の振興

■村民生活の目標像

観光客や修学旅行生は、季節ごとのイベントなどを通じて村民と交流しながら、村の旅の大きな魅力である自然や文化、スローな空間・時間を年間を通して堪能している。

第6節 雇用・労働環境

■村民生活の目標像

伊江村商工会と連携し、加工業を中心とした商品開発による事業規模の拡大等により、新たな雇用を創出し、Iターン、Uターンを受け入れられる環境が整っている。また、雇用体系の見直しにより労働環境の改善も見られる。

第2章 教育・生涯学習

第2章【教育・生涯学習分野の展望】

自ら学ぶことを楽しみ、地域で学びあう村

10年後の伊江村は…

地域の中で子どもから大人までが自ら学びあう中で、一人ひとりが学ぶ楽しさを感じるとともに地域への理解を深めています。

子どもたちは一人ひとりの成長に合わせたキャリア教育を受けることで自信と探求心が養われ、変化する社会で活躍するための力を身につけています。

また、スポーツや国際交流を通じて村内外の人たちとのコミュニケーションが充実し、健康で心豊かに暮らしています。

このような幅広い学びと体験を通じて、伊江村が培ってきた歴史・文化・伝統が次世代へ伝わっています。

<取り組みの方向性>

- ・15歳で島を離れて生活する伊江村の子どもたちが、社会に出ても自分に自信が持てるように、健やかな体、豊かな心、確かな学力を、一人ひとりの発達段階に応じてバランスよく育み、自分で考え行動できる子どもを育てます。
- ・伊江村の子どもたちが、島の豊かな自然や歴史、伝統文化を深く理解し、島外の子どもたちとのふれあいの機会も活かしながら、郷土に愛着と誇りを持てる教育を進めます。
- ・村民一人ひとりが自分に合ったスポーツを楽しめる環境を充実させることで、幅広いコミュニケーションを促し、体と心の健康増進を目指します。
- ・生涯にわたり学ぶことを楽しめる探求心を養うことで、子どもから大人まで全ての村民が互いに学びあい、むらづくりにかかわりながら、大人から子どもへ、そして未来の世代へ、沖縄の歴史を学び島の歴史を伝え平和の大切さを継承していきます。

第1節 幼児教育

■村民生活の目標像

保育所と幼稚園の教育・保育の連携により、一人ひとりの発達段階に応じた教育・保育サービスの提供をすることで、子育て中の保護者に対して子育てをしやすい支援や環境が整っている。

第2節 学校教育

■村民生活の目標像

変化の激しい社会をよりよく生きるために、児童生徒一人ひとりが確かな学力、豊かな心、健やかな体をバランスよく育み、15歳で島を離れていく子どもたちがふるさとの良さや味を忘れず、ふるさとへの愛着を深めている。

第3節 家庭・地域の子育て環境

■村民生活の目標像

学校・家庭・地域・行政が一体となり、安全な環境のなかですべての子どもに「学びの保障」が与えられ、家庭や地域での学習や体験を通じて、感謝の心を育み、心豊かに、夢と希望を抱くことができる子育て環境がある。

第4節 生涯学習

■村民生活の目標像

生涯にわたって生き甲斐をもって充実した生活を送れるよう、目的や世代、性別等に応じた多様な事業を通して、学習の成果発表や参加体験の場づくり、新たな学びのきっかけづくりの機会を得て、村民一人ひとりが能力を活かしている。

第5節 社会体育

■村民生活の目標像

地域の特性を生かしたコミュニティスポーツ活動を推進したことにより、村民各自のスポーツによる健康増進に対する意識が高く、普及・啓発・育成活動など関係機関と連携による推進体制の強化や村民参加型の総合型地域スポーツクラブを円滑に運営している。さらに総合運動公園の整備に伴い、スポーツコンベンションとして県内外からのスポーツ合宿等が活発化している。

第6節 国際・国内交流

■村民生活の目標像

村には国内をはじめ海外からの観光客の来訪が増え、子どもに限らず地域の大人たちも異文化の理解や地域の文化を尊重し、グローバル化に対応した人材の育成や海外移住者との交流を深めている。

第7節 文化芸術

■村民生活の目標像

村民共有の財産である文化財が適切に保全され、村民一人ひとりが地域の伝統芸能や民話、方言などの文化資源に親しみを持ち、その継承を図る。また、村民が学校や地域の活動、日常生活のなかでも地域の身近な自然や歴史・文化に親しみ、地域に愛着と誇りをもって心豊かな暮らしを営んでいる。

第3章 健康・福祉

第3章【健康・福祉分野の展望】

心も体も健やかに、誰もがいきいきと暮らせる村

10年後の伊江村は…

村民は自らの健康に関心を持っており、村内には日常的に健康づくりに取り組める環境が整うとともに、不安なときにはいつでも相談や受診ができ、必要な支援を受けられる環境が整っています。

このような一人ひとりの健康を基盤に、誰もがそれぞれの立場を尊重しあい、互いに助け合うことで心も体も健やかに暮らしています。

<取り組みの方向性>

- お互いの立場を尊重したコミュニティのなかで、互いに助け合いながら、誰一人取り残さずに、子どもから大人まで誰もが安心して暮らせる村を目指します。
- 村民一人ひとりが自身の健康に関心を持ち、日頃から積極的に健康づくりに取り組むことで、健康長寿の村を目指します。
- 新たな情報技術を活用した広域的な医療の連携強化のもと、医療・福祉を支える人材の確保や体制を構築し、健康に関する不安がなく暮らせる村を目指します。

第1節 子育て支援・保育

■村民生活の目標像

村民が相互理解・相互協力のもと互いに支えあいながら、心身ともに健康で安心して生活でき豊かな気持ちを持って、子どもの成長と生きる力を伸ばし、村にとって大切な「未来・希望」を育てている。

第2節 高齢者支援

■村民生活の目標像

健康面、経済面、家族構成など暮らし方の異なる高齢者が、充実した交流機会を得ながら、住み慣れた地域で、家族や友人、地域の人々に囲まれていきいきと充実した生活を送っている。また高齢者を見守る家族も安全・安心な生活を送っている。

第3節 障がい者支援

■村民生活の目標像

障がいのある人もない人も相互に理解し、いきいきと交流できる地域づくりをしながら主体的に自立した生活を目指し、誰もが安全・安心な生活を送っている。

第4節 健康増進

■村民生活の目標像

村民が、生涯を通して心身ともに健康で幸せに暮らし続けることができるよう、村民、行政や関係団体が社会全体で村民の健康的な暮らしを支える仕組みや環境を整え、住んでいるだけで自然と健康(幸)になれる「いーじま・いいしま」伊江村を目指します。

第5節 医療の維持確保

■村民生活の目標像

村民が、自らの健康に関心を持ち「自分の健康は自分で守る」という高い意識を持って、自身の健康管理に主体的に取り組むと同時に、離島の医療体制を正しく理解した上で、適正な医療負担のもと適正な医療サービスを受けられる。

第6節 生活支援

■村民生活の目標像

村民は、地域活動や就労など社会参加のための様々な機会を活用しながら、社会保障制度に対する公平な負担のもとみんなが自分の将来像を意識し考え、準備ができ、老後の生活の不安がなく生活している。

第4章 環境

第4章【環境分野の展望】

持続可能な暮らしで島の魅力を未来にひきつぐ村

10年後の伊江村は…

村民が伊江村の環境の大切さを感じ、子どもたちや訪れる人たちにその魅力を伝えており、自然環境と共生し、活用することで地域の活力が生まれています。

また、村民が、きれいな海と衛生的な生活環境を守ることや、廃棄物の量を減らし資源として適切な活用や処理をすることが、伊江村だけでなく世界の環境を守ることにつながることを理解しており、持続可能な資源循環型の島となっています。

<取り組みの方向性>

- 村民にとって見過ごしてしまいがちな、伊江島の環境の価値を再認識するとともに、世界の環境にも目を向け、自分たちの生活と自然環境とのかかわりについて理解を深めていきます。
- 日常生活や産業活動において資源循環に配慮して自然環境の保全に取り組み、持続的に島の環境の価値を次世代に伝えていきます。
- 村の環境の価値を産業や観光において適切に活用して村の振興を図り、環境・経済・社会の好循環を目指します。

第1節 環境教育

■村民生活の目標像

村民一人ひとりが地域や世界の環境に対して高い意識をもって生活しており、活力ある地域の産業と伊江島の自然環境が調和して共生している。

第2節 水環境の保全（海の水環境保全）

■村民生活の目標像

村民は、生活や産業が水環境に与える負荷について理解し、適切な排水処理に取り組んでおり、伊江島のきれいな海と、衛生的な生活環境が守られている。

■ 第3節 資源循環・環境産業

■ 村民生活の目標像

村民や事業者および観光客は、ごみの分別や減量に十分配慮しており、廃棄物の量が減少している。また、廃棄物の資源としての活用や適切な処理が進むことで、持続可能な資源循環型の島となっている。

第5章 生活・安全

第5章【生活・安全分野の展望】

資源を活かし暮らしの安全と快適を守る村

10年後の伊江村は…

村民は大人から子どもまで、災害や感染症、事故や事件など身の回りの危険から身を守るための術を知っており、互いに助け合い、行政と連携することで安全な生活環境を維持しています。

また、暮らしを支える上で欠かせない交通や衛生、通信などの基盤が整うとともに、教育や福祉などのサービスを提供する環境も整っており、それぞれの生活スタイルに合わせて快適に暮らしています。

<取り組みの方向性>

- 村民へ消防・救急・防災に関する知識や技術の普及啓発を進め、自助・共助の意識を高めていくとともに、離島という地域特性、地域特有の気象条件、激甚化する災害、経験したことの無い感染症の拡大など、予測が難しい事態にも柔軟に対応できる救急・防災体制の充実を図り、しなやかな強さを持った村づくりを進めます。
- 伊江村らしい暮らしを支える公共施設を有効かつ柔軟に活用するとともに、交通基盤や地域環境を快適に保ち、村民がそれぞれの価値観に沿って安全かつ快適に暮らせる村を目指します。

第1節 消防・救急

■村民生活の目標像

村民が、火災の防止や日頃から体調管理を行うなど、救急要請の減少に努め、限りある資源を有効的に活用し、必要な人に必要な活動が届けられている。

第2節 防災

■村民生活の目標像

村民一人ひとりが、非常時における行動を把握し、迅速かつ安全に避難することにより、被害を最小限にとどめることができ、災害発生時でも安心して生活できる。

第3節 交通安全・防犯

■村民生活の目標像

村民が思いやりを持ち、交通事故の減少・犯罪のない環境づくりに努め、村民が安全・安心に暮らしている。

第4節 上水道

■村民生活の目標像

村が、適正かつ合理的に水道施設を管理し水道事業を運営することによって、安全安心な水道水が需要に合わせて安定的に供給され、村民の生活環境の改善と公衆衛生が向上している。

第5節 村民の移動円滑化

■村民生活の目標像

村民へ利便性の高い快適な交通手段を提供し、日常生活、通院、緊急時など適正な価格で村と本島間を円滑に移動できる交通が確保されている。

第6節 島内交通基盤の充実

■村民生活の目標像

村民は、環境負荷が低く利便性の高い交通手段を活用し、快適に仕事や生活を営んでいる。また、訪問客もこのような交通環境を活用し、島内をスムーズに移動しながら観光などを楽しんでいる。

第7節 住環境

■村民生活の目標像

快適で良好な伊江島らしい地域環境や長持ちする家で、新たな定住者とともに、安心して快適に暮らしている。

第6章 協働・地域

第6章【協働・地域分野の展望】

村民の自律した活動と行政の連携で公共を支える村

10年後の伊江村は…

村民が村づくりに取り組みやすい環境が整っており、地区やそれぞれの暮らしで異なる課題の解決に自律的に取り組むことで、より充実した生活環境が実現しています。

住民の主体的な活動を支え村民主導のよりよい村づくりを進めるため、役場職員は地域課題や村民の活動支援ニーズを的確に捉え、民間事業者とも連携しながら行政の役割を効率的かつ効果的に果たしています。

<取り組みの方向性>

- 村民一人ひとりが、村を支えていくための責任と役割を理解したうえで、自律的に満足のいく住民自治を担えるよう、情報の共有や活動環境の整備に取り組みます。
- 人口減少や様々な災害等の影響等により、ひっ迫する国の財政も踏まえ、限られた財源の中で最も効果的な村づくりを行えるよう行政の役割を見極め、民間事業者との連携や公共の主役であり担い手である村民との連携を図っていきます。
- 既存の公有財産の最適な維持管理と活用を図るとともに、古くなった施設の更新にあたっては、これからの社会ニーズに合った機能の再編や魅力化により、効率的な整備を進めます。
- 村民の主体的な活動を総合的に支える行政は、常に村民の声を聴きながら政策を見直しつつ、変化の激しい時代に対応できるよう職員の資質向上を図ります。

第1節 情報基盤の充実

■村民生活の目標像

村民は、自律した生活を送るために必要な、行政、教育、福祉、子育て、環境、産業などの情報を多様な手段を通じて共有している。

■ 第2節 新しい公共

■ 村民生活の目標像

村民は、立場を越えて地域課題を共有し、各々の知識や経験を提供しあい、公共の主体として、行政と協働しながらむらづくりを行っている。

■ 第3節 効率的・効果的な行政経営

■ 村民生活の目標像

役場職員一人ひとりが意欲をもって地域の経営に取り組んでおり、地域の課題や村民のニーズが的確に捉えられ、必要な行政事業が財政状況を踏まえながら効率的かつ効果的に実施されている。

■ 第4節 米軍用地対応

■ 村民生活の目標像

先人から受け継いできた伊江島を、時代にあった適切な形で利用することで、自分の島に誇りをもって暮らしている。